

II 都市計画の目標

1. 都市の将来像

平成 17年現在、人口約 4 万 5 千人で、八重山圏域人口（約 5 万 1 千人）の約 9 割が居住する本区域は、広域交通施設や都市機能が集積する国内最南端の都市です。

県外からの移住者が多い反面、近年は若年層の流出や高齢化の進行が見られることから、恵まれた自然環境をいかすとともに、新石垣空港等社会資本整備を進めて、個性的でかつ雇用創出や定住条件整備に資する都市づくりを進める必要があります。

このことを踏まえて、おおむね 20 年後は次のような都市の実現を目指します。

①持続可能な循環型島しょ都市

本区域においては、廃棄物処理関連施設の整備や環境美化条例等の制定、生ゴミの堆肥化やマイバッグの徹底等による廃棄物の減量化、リサイクル化等資源循環型社会の構築に、行政、事業者、市民がそれぞれの立場で積極的に関わり、美しい自然や街並みが維持されています。

また、自然エネルギー活用や自転車利用が増加し、環境負荷の軽減が図られるなど持続可能な循環型島しょ都市の構築に向けた市民の環境意識は着実に高まっています。



▲（出典：Bio-City NO.5）

②八重の緑や水系に守られた自然豊かな都市

於茂登岳の雄大な景観をはじめ八重の連山、自然の宝庫である湿地・名蔵アンパル（ラムサール条約登録湿地）、石西礁湖や海岸域のサンゴ礁、河川、半島、岬等、貴重な動植物が生息する地形は、その姿形を変えることなく保全されており、都市生活に潤いを与えています。

そのような自然環境は地域の人々の誇りであるだけでなく、エコツーリズム、ブルーツ

ーリズム、グリーンツーリズムや市街地と連携したタウンツーリズム等体験・滞在型観光の魅力ある資源として産業活性化に寄与しています。

▼雄大な自然



▲良好な自然景観

③島々の魅力を活かし、人々が集う都市

港湾整備と一体的な開発により創出されたウォーターフロントは、新たな魅力が相互に機能し合い、都市内外を問わず多くの人々が訪れる多様な交流空間として整備が進んでいます。

また、既成市街地においても公園やコミュニティ広場等身近な交流空間が充実しており、居住環境の改善と相まってゆとりと潤いのある都市空間を創出しています。



▲石垣みなとまつり（「みなとまちづくりガイドブック」国土交通省）

④人・もの・情報が行き交い、暮らし文化を育む交流拠点都市

市街地には、クルージング拠点をはじめとした多様な交流拠点が形成され、関連した産業が集積するとともに、若年層の雇用機会が創出されて、人・もの・情報が行き交う、活気に満ちあふれた豊かな空間が構築されています。



▲石垣港将来構想図（石垣市HP）

⑤伝統が躍動し、個性と賑わいに満ちた芸能交流都市

既成市街地や既存集落においては、伝統的街並みや集落景観等地域個性を生かした生活空間の質的向上が図られています。

中心市街地においては、ユニバーサルデザインによる快適な都市環境を提供するとともに、身近な生活機能が集積し、職住近接が実現するなど、利便性の高い、歩いて暮らせる魅力的な空間が形成され、市民が集い賑わっています。

また、「詩の国、歌の島、踊りの里」と呼ばれ、多様な民族芸能が伝承されるこの地域では、アジアなどとの芸能交流が活発に行われるとともに、うたや踊りにあふれた回遊性のあるまちが形成されています。



▲豊年祭（石垣市市勢要覧）

2. 人口及び産業の規模

(1) 人口

本区域の将来における人口を次のとおり想定します。 (平成17年時点)

区 分		年 次		
		平成17年	平成27年	平成37年
都市計画区域		45.2千人	49.7千人	52.6千人

資料：平成17年国勢調査

(2) 産業

本区域の将来における産業の規模を次のとおり想定します。

区 分		年 次		
		平成17年	平成27年	平成37年
生産規模	工業出荷額	120億円	110億円	91億円
	卸小売業販売額	502億円	608億円	635億円
就業構造	第一次産業	2.6千人(11.5%)	2.5千人(9.9%)	2.6千人(9.4%)
	第二次産業	3.6千人(16.1%)	4.3千人(17.0%)	4.5千人(16.6%)
	第三次産業	16.3千人(72.4%)	18.4千人(73.1%)	20.1千人(74.0%)
	計	22.6千人(100%)	25.2千人(100%)	27.2千人(100%)

資料：沖縄県の工業、沖縄県の商業

3. 現状と課題

●秩序ある土地利用の徹底

これまで港の周辺を中心に市街化が進み、コンパクトな市街地を形成していましたが、近年、特に現石垣空港周辺の大型店舗や住宅などの立地に伴い、用途地域周縁部の用途地域の指定のない区域（以下、「用途白地地域」という。）に市街地が拡大しつつあります。

そのため、生活環境の改善とともに自然環境を積極的に保全し、適正かつ計画的に土地利用を進めるなど、早急な対応が必要です。

●体験・滞在型観光の支援

近年は、価値観の多様化、環境や文化への関心の高まりと合わせ、周遊型観光や拠点型・滞在型観光など観光需要が多様化し、特に、エコツーリズムやグリーンツーリズム、ブルーツーリズムといった体験・滞在型観光が重要視されており、豊かで多様性に富んだ自然環境、歴史的・文化的特性を有する八重山圏域は、非常に大きな可能性を有しています。

反面、郊外部における廃車の不法投棄は、観光の魅力を損なうものであり、早急な対策が求められます。

観光・リゾート産業の振興を図り、新たな雇用機会を創出するため、歴史的・文化的資源や自然資源の保全、赤土流出防止や良好な景観形成等の景観対策をはじめ、「とうもろネット」の整備など情報化の推進、循環型社会の構築等の環境対策が不可欠です。

●島々の内外とアジアを展望したネットワークの構築

石垣島に暮らす人々の生活や経済活動を支え、観光客の増加等増大する航空需要に対応するため、また航空機騒音を低減し、現石垣空港周辺の市街地の居住環境を改善するためには、新石垣空港の早期整備が急務です。

また、新石垣空港は、「アジア・ゲートウェイ構想」における国際空港ネットワークの拡充の一翼を担う地方空港として、その実現に向けた取り組みが必要です。

一方、アジア諸国の首都に最も近い八重山圏域の地理的優位性を生かし、多様な物流ネットワークの充実や外航クルーズ船就航の定期化を促進するため、石垣港新港地区の大型旅客船に対応した岸壁の整備等機能拡充が急務です。

さらに、生活者・観光客の利便性向上を図るためには、新石垣空港と石垣港や中心市街地、既成市街地と既存集落、都市拠点とリゾート拠点等を有機的に結ぶ体系的な道路網整備が重要です。

●島々文化を支える歴史的資源の活用

ゆとりや潤いを創出し、身の回りの生活空間の質的向上を図るには、既成市街地や既存集落における伝統的景観要素や歴史的資源などを積極的に保全するとともに、地域個性を受け継ぎ、地域コミュニティを醸成する必要があります。また、まちなかにおいては、うたや踊りなど伝統文化を通して交流する場を創出することが重要です。

さらに、台風の常襲地域に位置し、市街地が海に面する石垣島においては、安全・安心な都市づくりを進める観点からも、防風・防潮林や、生け垣、屋敷林など歴史的資源の積

極的な育成等が求められます。

●海を感じる島しょ都市の形成

北側の農地や丘陵、また南側の海という地形的制約により、市街地の南北方向への拡大はこれまで抑えられてきましたが、東西方向へは広がりつつあり、特に用途地域の東外縁部においては、空港移転を機にさらなる市街化が進むと予想されます。ただし、このような市街地拡大の弊害として島々への通景が損なわれつつあり、良好な市街地の形成と効率的な社会資本整備を図るためには、無秩序な市街地の外延化は抑制し、海を感じる魅力ある都市環境の創出が重要です。

また、コースタルリゾートエリアについては、人流・物流といった流通機能の充実に加え、新たなリゾート拠点の確立を図るなど、「地域のふれあいの場となる『みなとまちの形成』」を目指した整備を進めるとともに、石垣港登野城地区においては、中心市街地で進めている都市再生整備計画に基づく各種事業と連携し、今後も、港湾整備と一体的な市街地の再生を図り、賑わいを創出する必要があります。

併せて、魅力ある市街地を形成するため、現石垣空港などの跡地利用に際して公共施設等の適正配置を図るとともに、市街地内においては、ユニバーサルデザインを推進し、電線類地中化や身近な憩いの空間づくり、公共下水道の整備推進、情報通信基盤の整備等を図る必要があります。

●良好な自然環境及び自然景観の保全

近年、移住者の増加等を要因に、市街地以外の良好な自然環境の残る地域における開発が増加しており、石垣島の魅力である良好な自然環境及び自然景観の損失が危惧されています。景観法に基づく景観計画として「石垣市風景計画」が策定されており、今後は当該計画に基づく様々な施策の展開が求められます。

4. 都市づくりについて

1) 基本理念

本区域においては、ユニバーサルデザインの考えを積極的に取り入れ、すべての人が自らの意思で自由に行動し、社会参加のできる「すべての人にやさしいまちづくり」を行政と住民が一体となって進めるとともに、多様な文化の継承・発展と豊かな自然環境や生態系との調和等、個性的で魅力ある都市の実現を目指します。

2) 広域的な位置付け

大小 32 の島々からなる島しょ地域の八重山圏域は、個々の島々が貴重な野生動植物を含む優れた自然環境を有しているほか、多種多様な民俗芸能が伝承されるなど、独特の歴史的・文化的環境を有する多様性に富んだ地域です。

また古くから台湾や中国大陸との交流が盛んな地域であり、これまで独自の地域間交流を育んできています。

島々は、これら多様な魅力を育み相互に補完し合うことによって発展してきており、本区域は八重山圏域における島々の中心として機能してきました。

我が国最南端に位置するこのような多様性に富んだ豊かな八重山（ふくらしややいま）の自然環境、歴史的・文化的特性をいかし、島々と共生する個性ある都市づくりの推進とその環境を次世代に確実に受け継いでいく地域共同体の醸成と賑わいの創出のため、本区域においては次のような広域的な位置付けを設定します。

島々文化都市圏・ふくらしややいま（豊かな八重山）

3) 基本方針

南の島の夢空間の実現 —「おーりとーり」を感じるまち—

※「おーりとーり」を感じるまち

住民との意見交換の過程で提案された、いたる所で安心できる（「おーりとーり」（歓迎・歓待）を実感できる）空間を創出するという将来都市像の一つ

①多様な連携による交流拠点都市づくり

空港や港湾の整備を推進し、広域的な人流・物流機能を強化します。

また、道路網の整備・充実を図り、利便性を高めるとともに、ユニバーサルデザインを導入した気軽に歩ける生活道路の整備を進めて、快適な交通環境を実現します。

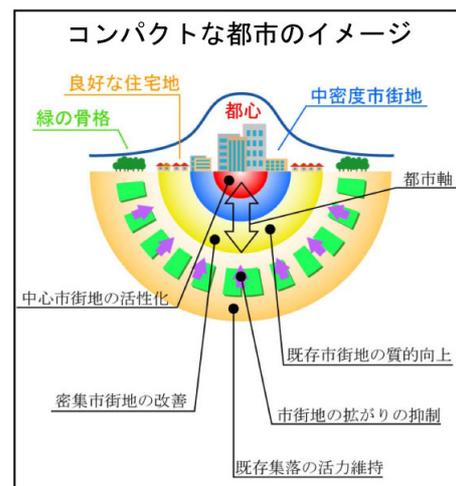
併せて、下水道や河川等は、水質改善と環境負荷軽減に資する整備を推進します。

②自然環境と共生するコンパクトな都市づくり

市街地では、用途地域内への住居系、商業・業務系、工業系機能の集積を図り、効果的・効率的な社会資本整備を進めて、まとまりのあるコンパクトな都市の形成を図ります。

また、郊外においては、無秩序な市街地拡大の抑制、自然環境の保全を重視し、緑地や農地、海域を保全するとともに、既存集落での都市的土地利用の集約化やリゾート開発における環境と調和した土地利用の誘導を図ります。

さらに、新石垣空港周辺や現石垣空港跡地等、土地利用転換が想定される地域については、周辺状況を踏まえつつ、計画的な土地利用を促進します。



③賑わいのある回遊都市づくり

商業機能や流通業務機能の集積と伝統的な住まいが共存する本区域では、小規模改善等

による狭小道路対策を推進し、これらの魅力を活かした快適な居住環境づくりを進めます。

また、島々を結ぶ拠点である石垣港周辺については、海浜プロムナードなどウォーターフロントの整備・充実を進め、みなとまちの形成による賑わいの場や、島人と来訪者、高齢者と子ども等、多様な人々が語り触れ合う空間の創出、良好な景観形成を図るとともに、港と市街地の連続性・回遊性を重視した都市づくりを促進します。

④安全・安心な暮らしを支える都市づくり

建造物の耐震化・不燃化を進めるとともに、自然の障壁である緑地やリーフの保全等、自然環境を活かした都市防災機能の強化を図ります。

また、防災拠点やオープンスペース、避難経路の確保を図り、安全・安心の都市づくりを推進します。

⑤景観資源が息づく心豊かな都市づくり

本区域では、風致的に優れた自然資源を保全し、それらと調和したリゾート・レクリエーションの場の形成を進めるとともに、市街地や既存集落の内外では、御嶽林や屋敷林、石垣、赤瓦等、石垣らしさを醸し出す景観要素を活用し都市環境を創出します。また、街路樹や海岸域の防風防潮林の保全・育成等による積極的な緑化を推進し、潤いのある都市環境を創出します。

さらに、本区域の新たな玄関口となる空港、港湾については、市街地と連続する緑の軸線整備を進めるなど、積極的な修景整備を行い、良好な環境形成を図ります。

4) 将来都市構造

島しょ地域である本区域は、石垣港を中心とした市街地が八重山圏域の島々を結ぶ都市拠点として発展してきていることから、将来都市構造を次のとおり想定します。

この石垣港から中心市街地を横断する軸を都市の骨格軸として、石垣港周辺の市街地開発等により中心市街地の拠点性をさらに高めるとともに、市街地と新石垣空港を連結する交流（物流）軸を強化して、八重山圏域内外の広域交流・広域連携を促進します。

また、石垣新川を越えた市街地の無秩序な広がりを抑制するとともに、郊外部の雄大な自然が残る緑地ゾーン、田園景観が広がる既存集落周辺やレクリエーション拠点・リゾート拠点などを有機的に結びつけ、多様性に富んだ豊かな都市の形成を図ります。